

のぞいてみよう！ せんだいの歴史 ゆかりの絵画編

伊達慶邦が見た仙台藩の風景

仙台市博物館 学芸企画室 大久保 春野

第14回

嘉永五年（一八五二）8月6日、仙台

藩13代藩主伊達慶邦は約1カ月に及ぶ藩内の巡見に出発しました。藩主に就任して11年、慶邦28歳の時です。この巡見先での風景や物事を描いた絵巻が、現在4巻分確認されています。そのうち、出発から6日目の途中までを描いた1巻が、今回ご紹介する「御領内名所図会」です。

巡見に同行した絵師

この巡見には、藩の御用絵師（藩の仕事を担当する絵師）であった佐久間六所が同行し、慶邦の求めに応じて絵を描いていたことが記録に残っています。しかし、この絵巻が入る箱には、六所の息子で、同じく御用絵師をつとめた佐久間晴岳の名前が記されています。本当は六所が描いたものか、六所の現地でのスケッチをもとに後から晴岳が描いたのか、あるいは晴岳も巡見に同行していたのでしょうか。詳しい経緯は分かりませんが、佐久間六所・晴岳父子が関わって制作されたと考えられます。

藩主が見た風景

絵巻に描かれる全29図のうち、大半を占めるのは図1のような各地の風景です。また、製糸業の様子も描かれ、領内の地形や人々の営みなどを実際に見るという、巡見の目的に沿った記録の役割を果たしているようです。カメラのなかった時代、領内各地の様子を絵に描き残す絵師の役割は大きかったことでしょう。

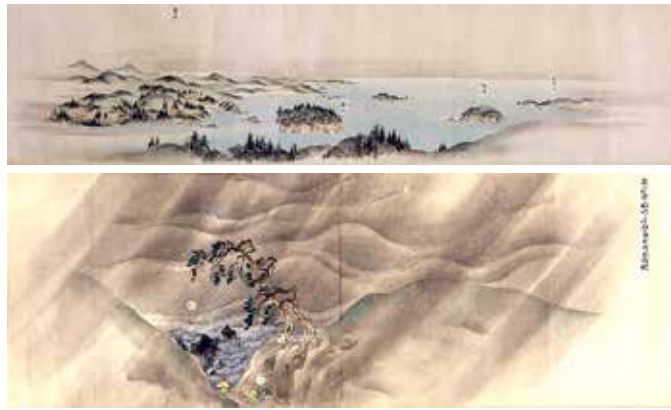
一方でこの絵巻には、領内の記録だけではなく、道中の出来事を描いた絵日記のような役割も感じられます。例えば図2は、泊崎（現南三陸町歌津）の唐船番所（異国船の監視場所）に向かうはずが、暴風雨に遭い、断念した際の図です。巡見の目的が果たせなかった出来事ですが、荒れる海、しなる樹木、風で笠が飛ばされる人の様子など（図3）、風雨のすさまじさを、臨場感をもつて伝えています。ほかに、夕日に染まる田園や雨後の虹に注目して描かれた図があることも印象的です。慶邦が、美しい光景なので描き残すよう命じたものでしょうか。のち

に慶邦が家族などと一緒に見て、巡見の思い出を懐かしく振り返ったのではないかと、とも想像が膨らみます。ぜひ収蔵資料データベースではかの図もご覧ください。

今回紹介した作品の画像は、仙台市博物館ホームページの「収蔵資料データベース（二次元コード）」からご覧いただけます。



図3 図2部分拡大



【御領内名所図会】江戸時代後期 仙台市博物館蔵（部分）

図1（上） 志津川黒崎からの眺望図

図2（下） 歌津村泊崎唐船番所大風雨図

徳川歴代将軍の甲冑が一堂に。

特別展 徳川 将軍展 十五代

～国宝・久能山東照宮の名宝～

9月12日「金」

11月9日「日」



詳しくは博物館ホームページをご覧ください。

【資料左】金龍寺蔵定九月十二日～十月五日展示、右、曲楽員定十月五日～十一月五日展示
いずれも部分、久能山東照宮博物館蔵

【観覧料】一般1,600円、高校・大学生1,300円、小・中学生900円
【開館時間】9:00～16:45（入館は16:15まで）
【休館日】毎週月曜日（9/15、22、10/13、11/3は開館）、9/16、24、11/4
展覧会公式X: @2025TOKUGAWA15

仙台市博物館 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地（仙台北三の丸跡）
SENDAI CITY MUSEUM TEL: 022-225-3074 博物館X: @sendai_shihaku